

□令和4年度 元気なまちづくり支援補助金

■令和4年度 NPO パートナースhip創造事業補助金

活動報告会報告書

団 体 名	吉都線に観光列車を呼ぼう！小林実行委員会
実 施 日 時	令和4年12月14日（水）
事 業 費	500,000 円（うち補助金： 500,000 円）
事 業 概 要	令和4年10月1日JR吉都線吉松駅から小林駅間が開業110周年を迎える。これからもこの鉄道を後世に繋げるためには、新たな鉄道価値・鉄道需要を喚起する必要がある。現在、吉都線の利用は高校生の通学が9割を占め、少子化の影響で年々需要は減少し、生活路線としては限界を迎え路線廃止の懸念さえ出ている。 このような中、10月20日から吉都線にクルーズトレインななつ星In九州が入線した。記念の年に観光列車誘致という念願がかない感謝するとともに、生活路線から観光路線としての新たな位置付けが加われば、沿線の価値が見直される機会になる。 行政や他の団体とも協力して「吉都線シンポジウム」を企画する中で、吉都線の観光路線の位置づけと路線維持の機運を醸成するイベントとする。
事 業 実 績	① 事業内容 令和4年12月14日に JR 吉都線利用促進協議会と共催し、小林市文化会館小ホールで「吉都線シンポジウム」を開催した。 オープニングアクトとして JR 吉都線応援大使 大野勇太氏によるライブ 第1部 ローカル鉄道で地域を元気にしようと題し、えちごトキめき鉄道 鳥塚亮社長基調講演が行われた。 全国で鉄道を「乗って残そう」という活動が行われてきたが、うまくいっていない。大事なことは地域が栄えること。西諸の風景に吉都線が走る姿は絶対に絵になる。鉄道は地域の足というだけではなく、人を呼ぶツールになり、地域に人が来れば地域が潤う。これが今の時代に合った新しい鉄道の使い方ではないか。ななつ星 in 九州が来た際に沿線でたくさんの人のお出迎えし、地域と鉄道会社が一体になって生まれる相乗効果を使って吉都線を憧れの場所にすることが出来たら、面白いことになる」と語った。 第2部 旅をつくる～ななつ星in九州の車窓から～と題し、JR九州クルーズトレイン本部小川聡子次長基調講演が行われた。

事業実績	ななつ星 in 九州は「新たな人生にめぐり逢う、旅」をコンセプトに、人と人との新しい出会いを感じる、めぐり逢いに溢れた旅を目指している。豊かさの考え方を心が満たされることで、心が動くような体験が記憶に刻まれていくということ。 吉都線に入線するにあたって、小林市ですばらしい食材やすばらしい人たちとの出会いがあった。この地域の人たちと一緒にならば、すばらしい旅を作ることができると感じたと語った。 第3部 JR吉都線応援大使である田代剛アナがコーディネーターになり、鳥塚亮社長・小林市長とJR吉都線の未来に向けたパネルディスカッションを開催。 宮原市長 吉都線のおかげでななつ星 in 九州という感動を体験でき、鉄道の良さ、ありがたさを再認識できた。事業者任せではなく、沿線住民・自治体が当事者意識を持つことが重要。 鳥塚社長 今は吉都線に観光路線というイメージはほとんどない。だからこそ可能性がある。遠くから人を呼ぶばかりが観光ではない。鉄道とお酒は相性がいい。地元の人が地元の食材・お酒を味わいながら地元の列車に乗るのもひとつの観光。 吉村 赤字だからローカル線は不要ということはない。吉都線を守るため、生活路線から観光路線に転換する旗振り役を今後も続けていく。
工夫した点	JR 吉都線利用促進協議会と共催することによって、JR 吉都線だけではなく JR 肥薩線・JR 日南線・JR 指宿枕崎線からも関係者が集まり意見交換を行う場となった。
反省点 (課題)	登壇予定の JR 吉都線利用促進協議会会長がコロナ感染となり急遽シンポジウムの構成を変更した。
今後の計画	令和5年度は吉都線全線開業110周年の節目の年なので、宮崎駅発・鹿児島中央駅発の旅行商品の企画を実施したい。

※ 行の幅は自由に増減してください。ただし、A4判内で簡潔に作成をお願いします。

※ 作成したチラシ等がありましたら併せて提出をお願いします。

